

青木村子どもはつらつネットワーク通信

平成28年度 第133号 10月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行



青木村は自然がとても豊かなことから、昨年に引き続きソニー教育財団主催・**科学の泉**に学びの場を提供しています。また、学校教育が充実していることから**信州大学人文学部**や**上田高校**の学生が研修に訪れています。**清泉女学院短期大学**の学生も未就園児との交流のために来村しました。今月号ではその様子をお伝えします。



公益財団法人 ソニー教育財団 主催

8月7日～12日

「第12回科学の泉—子ども夢教室」を終えて

青木村役場建設産業課商工観光係長 依田 哲也

昨年より本村が開催地となっている「科学の泉—子ども夢教室」は、この8月7日(日)～12日(金)まで開催されました。「科学の泉—子ども夢教室」とは、公益財団法人ソニー教育財団(注釈※)の活動プログラムの一つで、2000年にノーベル化学賞を受賞された、筑波大学名誉教授の白川英樹先生を塾長として、全国から選ばれた約30名の小・中学生が塾生として5泊6日間、寝起きを共にしながら自然を学びます。

この教室の目標は、①自然をじっくりと探索するなかで自ら疑問や関心をもち、よく観察し、よく記録し、よく調べ、よく考えるように積極的に行動しましょう。②塾長の白川先生や塾生、指導員などの人柄にふれて、物事に取り組む意欲や情熱を感じたり、多様な考え方を受け入れたりするように心がけまし



よう。③集団生活をするなかで自分の立場や役割を考え、仲間と一つの目的に向かって協力する楽しさを味わえるように相手を思いやりながら行動しましょう。とうたわれています。塾生には、自然観察を通じて自然を愛する心を養うばかりでなく、この教室を通じて、携わった方々との触れ合いから人の大切さを学ばせることも大切にしており、子どもの健全な育成を推進していることが分かります。

今年で12回目となる今回の教室を開催するにあたっては、塾長の白川先生を中心としたスタッフと指導員が昨年の経験を活かしながら、綿密な打ち合わせを重ね続け、4月と7月に、青木村での現地視察を行なうなど、入念な準備がされました。村としても財団の要望に添えるよう、最善を尽くさせて頂きました。今回の塾生は作文・面接により全国から選ばれた小学校5年生から中学校2年生までの28名が参加し、教室のスタッフとなる指導員は全国から小・中学校の現役の先生が4名と養護4名の計8名と一緒に活動しました。

活動エリアは中村区を中心に活動し中村生活改善センターを拠点として、期間中は休耕田や野鳥の森、ほたるの里で自由に自然を学びながら、信州昆虫資料館の見学などを行いました。また、3日目には青木中学校で白川先生の受賞のきっかけとなった導電性プラスチックの実験なども行われました。

私は活動期間中随行し、塾生の活動の様子を見させて頂きました。子ども達は真夏の暑い中ではありましたが、意欲的で個々の主張がはっきりしており活発に活動していました。また、観察の時には注意深く細かいところまで目を配りながら調べて丁寧に記録するなど、生き生きと目を輝かせながら活動している姿がとても印象的でした。



子ども達に対する白川先生の言葉のなかで「動物や植物などの生物、光や音、電気や磁石、地球と宇宙など、皆さんが学校で学ぶ理科はすでによく分かったことだけです。自然はもうすっかり明らかにされてしまったと思うかもしれません。しかし、実際には未だ分からないことの方がはるかに多いのです。新しい発見や発明のチャンスは次世代を担うあなた方にもあるのです。そのためには自然に親しみ、自然をよく観察することが大切です。観察したことをありのままに記録することも大切です。そして観察し、記録したことを図鑑や辞典などでよく調べてみることも大切です。そうすることによって、これまで多くの人が見逃していたことを見つけたり、学校で習ったことが間違いであったりすることが分かるか

もしれません。」と仰っています。

今回、この教室のお手伝いをさせて頂いて、私自身も自然の奥深さを改めて気付かされる中、参加した塾生の皆さんにはこの教室での体験が、将来の夢への飛躍のきっかけとなることを願っています。

最後になりますが、中村区や青木中学校、信州昆虫資料館、田沢温泉富士屋ホテル様をはじめとして今回の開催にあたり、ご協力をいただきました皆さんにこの場をおかりしてお礼を申し上げたいと思います。大変ありがとうございました。

(※) 公益財団法人ソニー教育財団

ソニー創業者である井深大氏の理念を引き継ぎ、科学を通して、好奇心や創造力を伸ばし、勇気をもって新しいことに挑戦していく子どもたちを育てることに情熱をもって取り組む人々と学びの場を支援することを目的とし、教育助成や先生方への支援、子どもたちが科学する場づくりなどの活動プログラムに取り組んでいます。



8月3日

上田高校夏季フィールドワーク



上田高校は昨年度よりスーパーグローバルハイスクールの指定を受けており、8月3日(水)には「グローバルスタディⅠ夏季フィールドワーク」として、1年生全員が8つの分野に分かれて研修を行います。

した。今回はその内の「子ども・スポーツ」コースの46名が児童センターで子ども達の宿題をみたり、青木小学校のICTの授業の体験をしました。





青木中学校を訪れて感じたこと

信州大学人文学部人文学科3年 奥村 明

8月24日から26日にかけて信州大学人文学部の授業の一環で青木村を訪れ、青木中学校を見学させていただきました。その中で私は、青木中学校は「学習の内容」と「学習の環境」に恵まれた場所だと感じました。

前者については、青木中学校の授業では一問一答形式の単純な質問ではなく、「なぜ～?」「どうして～?」という質問が多く聞かれているように感じました。

このような質問には頭の中で自分の知識を組み合わせ順序立てて答える必要があり、青木中学校では生徒の「考える力」を育てることに力を注いでいるように感じました。

後者については、青木中学校の先生方はみな生徒の目線に立った授業を行っていて、授業中は様々な工夫を拝見でき、机間巡視やアドバイスをこまめにしている様子が印象に残っています。

今回の訪問で私は、教員は生徒と同じ目線に立つ必要があるということと、わかりやすい授業をするためには、教員も勉強し続けなければいけないということを強く感じました。このことを心に留め、今後も教員を目指し勉強していきたいと思えます。





ゆりくま（清泉女学院短大サークル）IN 青木

9月13日

きのこっ子祭りに参加して

清泉女学院短期大学 2年 加藤 恭佳



私は、今回初めてきのこっ子祭りに参加させて頂きました。私自身、保育士を目指し大学の幼児教育科に通っているのですが、子どもたちと関わることはたくさんありますが、0.1.2歳の乳児さんたちとの関わりはあまりなかったため今回のイベントをとても楽しみにしていました。

子どもたちは当日、役員さんや学生と一緒に手遊びや、体操、お神輿など

をやり、楽しい時間を過ごすことが出来たようでした。また、役員さんや学生で作った色々なお店やさんを回り、ゲームを楽しんだりしている姿が多く見られました。短い時間でしたので、乳児さんたちと深く関わることは出来ませんでした。一緒に活動することが出来てとても楽しかったです。このイベントを通して、保育士になりたいという思い



がさらに強くなりました。残りわずかな学生生活ですが、夢に向かって精一杯頑張りたいと思います。

リトミックサークルきのこっ子では、随時会員を募集しています。ご興味のある方は教育委員会、坂巻さんまでご連絡ください。（TEL 49-2224）

はつらつ先生 IN あおき

今回は、青木中学校 2 年副担任 **滝澤 政彦** 先生です。

- 好きな食べ物…肉料理。特に豚が好き。

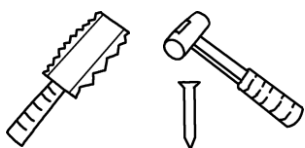


魚介類だったらイカが好き。大学の時の大食い大会で（参加者 200 人）もやし

ときゅうりと人参とピーマン→大根まるごと→ハンバーグ→1.5l の

スポーツドリンク→最後はレディーボーデン(アイス)を制し優勝しました。

- 苦手な食べ物…マーガリン。小学校低学年の頃給食に出て一時食べられなくなりました。今は食べられます。



• 趣味…子どもとキャンプに行ったり、家の庭の木の剪定や畑で野菜を作ったり、DIYをしったりしています。お酒を飲みながら人と話しをするのも好きです。



- どんな子でしたか？…小学校 4 年生位までガキ大将でした。1 つ上に兄がいて、兄の同級生にかまわれていました。野球をしたり、山に行って基地づくりをしたりしていました。中学校では部活ばかりやっていたので 3 年生から目をつけられていました。

- 先生にならなかったら？…漁師。学校の帰りにため池でよく釣りをしました。

- 好きな有名人は？…ビートたけし。才能があるしおもしろい。『俺たちひょうきん族』をよく観ていました。

- お休みの日は何をしていますか？…畑仕事や庭でゴルフの練習。新種の野菜の苗をみつけると買ってしまいます。土日は犬の散歩をしています。



先生から一言…

青木に来て 4 年になりますが、青木村の方の温かさに本当に助けられています。お蔭で仕事が大変だと思ったことはありません！ありがとうございます。

編集後記

今年度後期の「はつらつネットワーク参加団体活動計画表」を合わせて配布しました。是非積極的にご参加ください。